

平成 24 年度 2次評価（基本施策評価）シート

基本施策名	20	美しい川の環境を維持する	評価責任者 (基本施策主管課長)	建設部建設1課長 北山 太加規
生活課題	川が汚れておらず、魚がいて、川遊びができるような環境がある		生活課題に対する満足度 H27目標値	37.0 %

基本施策の現状分析及び意図

基本施策の体系		基本目標	快適
		政策	自然と共生するうるおいあるまちづくり
①	市民意識調査結果	<p>②左記結果に対する現状分析・市民との協議結果</p> <p>市民意識調査によると、本基本施策の満足度は平均よりかなり低率で、必要度は90%台と高率であることが分かる。すなわち、現状に満足しておらず、今後の整備の必要性は高いという傾向が見られた。</p> <p>参考 満足度（満足意識） 27.4 % 必要度 92.2 %</p>	
③	基本施策の現状と課題	<p>①河川の水質汚濁や不法投棄などに対する市民の関心が高まっている。</p> <p>②地域住民による河川の水質保全・河川美化に対する活動が活発になっている。</p> <p>③河川の氾濫の未然防止のため、遅れている河川整備を進めなければならないこと。</p> <p>④河川管理のために、地域住民の協力を得る必要があること。</p> <p>⑤市管理河川で土砂の堆積が顕著になっていること。</p>	
④	基本施策の意図、今後の展望	<p>河川の氾濫を防止し、河川の美化を進めます。</p> <p>①国・県と連携して、川上ダム建設事業、上野遊水地事業、木津川上流域の河道改修を推進する。</p> <p>②準用河川の整備と河川に堆積する土砂の浚渫工事を進める。</p> <p>③河川に繁茂する草の刈払いを地域住民の作業協力を得て進める。</p>	

⑤ 基本施策指標（総合計画数値目標）

基本施策指標名	単位	過年度実績		評価年度			目標値	指標の説明
		H22	H23	H24	H25	H27		
1 河川改修実施延長	目標	m	300.0	35.0	90.0	150.0	100.0	準用河川改修工事延長
	実績	m	300.0	35.0				
	達成率	%	100.0	100.0				
2 土砂浚渫実施ヶ所	目標	ヶ所	5.0	4.0	6.0	6.0	6.0	河川堆積土砂浚渫等工事箇所数
	実績	ヶ所	6.0	6.0				
	達成率	%	120.0	150.0				
3 住民協力草刈作業箇所	目標	ヶ所	30.0	17.0	16.0	16.0	16.0	自治会への作業委託箇所及び草刈燃料支給箇所の総数
	実績	ヶ所	17.0	16.0				
	達成率	%	56.7	94.1				
	目標	%						
	実績	%						
	達成率	%						
	目標	%						
	実績	%						
	達成率	%						
	目標	%						
	実績	%						
	達成率	%						

⑥ 基本施策構成事務事業の評価

基本施策を構成する事務事業名	担当課	I D	事業名	改善余地の有無	事業費（人件費込、単位：千円）			基本施策貢献順位
					H23 決算額	H24 予算額	H25 所要額	
1	建設部建設1課	659	臨時河川等整備事業	無	47,000	72,700	73,600	1
2	建設部建設2課	660	臨時河川等整備事業	無	2,220	15,200	20,800	1
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
（ 以 下 続 紙 ）								
事業費合計					49,220	87,900	94,400	

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な事業（総合計画実施計画の期間内に実施を予定する事業）

事業名	事業主体	事業内容等

⑧ 基本施策の現状分析に基づく改革案の説明

評価視点	評価コメント
1 基本施策指標の分析	河川改修は着実に整備を進める事が必要であるとする。また、本市の管理河川では土砂堆積が著しいため浚渫も重要な課題である。さらに、河川の管理を行き届かせるため、流域の自治会等へ軽易な草刈作業協力の拡大を今後の柱としたい。
2 事業構成の適当性（手段として最適か？）	現在は1ヶ所で河川改修事業を行っているが、未改修河川も多く残されているため、対策としては不十分である。流域の自治会等から要望の多い浚渫について、堆積土砂の浚渫工事を並行して進めていくことが必要である。
3 役割分担の妥当性	管理者だけで河川の水質汚濁や不法投棄の監視まで行うことは困難であり、河川環境を守るための軽易な草刈作業や河川監視等の協力について、流域の自治会や地域住民に要請して拡大することが重要である。
4 総合評価（今後の方向性、事業の見直しについて等）	現在実施している里川改修工事を早期に完了させ、また、新規の事業採択に当たっては、費用対効果に留意し国の補助メニューを活用するとともに、採択基準を明確にして緊急度の高い河川を採択する。浸水被害を低くするために、河川堆積土砂の浚渫工事を進める。その際、地元へ残土捨場の確保を要請し工事費の圧縮に務め、さらに、河川敷内の草刈作業に対する草刈燃料支給の作業協力を拡大する。